

実践⑧ 県立鹿屋高等学校

1 はじめに

本校は、男女共学の普通科高校で、大隅半島にある県立高校である。「知・徳・体」を校訓とし、大正12年（1923年）の創立以来、生徒の最高の目標であり、「知・徳・体」の調和的な向上発達に努め、心身共に健康な人間としての完成を期待している。また、「知」「徳」「体」を表す三つの光芒からなる校章は、三星と称し、生徒は「三星健児」と呼ばれる。



図書館は、平成16年に、校舎内から食堂として使用されていた建物に移転した。生徒の生活動線上から外れた場所にあるため、生徒の利用状況は、昼休みや放課後に読書や調べ物などをする生徒よりも、自習に利用する生徒が多い。図書館と読書を身近に感じられるような活動を積極的に行っていかなければならないと実感している。

2 校内一斉読書の取組

校内一斉読書は、年に1回、10月下旬から11月中旬の統一LHRの1時間で実施される本校の読書活動の一つである。生徒の読書に対する積極的な態度と思考力や表現力を養うことをねらいとして実施される。また、司書教諭・学校司書としても、多くの本に触れる機会を作りたい、生徒同士のコミュニケーションを深めたいなどの思いがある。全学年で実施するため、全校生徒が一度に本に触れられる絶好の機会である。内容は、集団読書や輪読を実施していたが、ここ数年は、ビブリオバトルを開催している。ビブリオバトルは、時間の都合上、公式ルールではなく、特別ルール（発表3分・質問タイムなし）で行っている。各クラスで予選・決勝戦を行い、チャンプ本を決定するというものである。

(1) コロナ禍での対応

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、ほとんどの読書活動が例年どおりできなくなってしまった。

そこで、校内一斉読書は読書指導係で知恵を絞り、各自がお薦め本のポップを作成し、見せ合い、予選・決勝戦を行う、“紙上ビブリオバトル”を実施した。

(2) 事前準備

生徒には、ポップ作成用のワークシート【図1】を配布し、一斉読書の当日までに構想を練ったり、絵を描いたりしておくように連絡をした。また、図書委員（各クラス2人）を集め、当日の司会進行について事前指導を行った。

(3) 当日の流れ

最初の10分間でポップの仕上げを行った後、6班に分かれ、ポップと本を班内で回しながら、予選を行った。チャンプ本決定シート【図2】を使い、どの本が一番読みたくなったかを書きとめ、班のチャンプ本を決定した。決勝戦は、班から1人ずつ壇上で、1分間の発表を行い、挙手による投票でチャンプ本を決定するという流れで行った。

鹿屋高校 紙面ビブリオバトル 紹介文シート
○当日までに紹介したい本のおすすめポイントやあらすじを150字程度でまとめよう。
(みんなが読みたくなるように書こう。)
書名: _____ 作者: _____

紹介するためのポップを作ろう!

()年()組()番 氏名

【図1】

クラスのチャンプ本はどれだ!? 決定ワークシート
1 グループ内の人の本やポップを読んで、メモを埋めよう!
※3つ塗りつぶして発表。
名前 | 内容について面白かった | 読みたいたいと思った度
1 | | ☆☆☆
2 | | ☆☆☆
3 | | ☆☆☆
4 | | ☆☆☆
5 | | ☆☆☆
6 | | ☆☆☆
7 | | ☆☆☆

【図2】

(4) 当日の様子



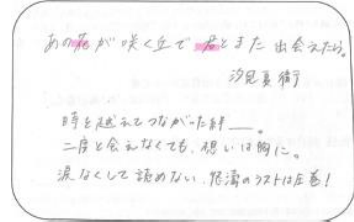
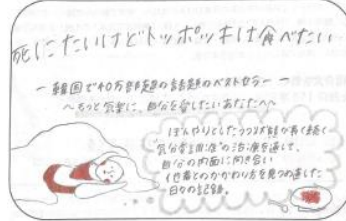
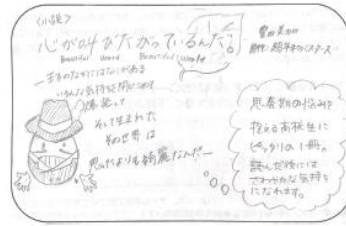
【予選】



【決勝戦】



【チャンプ本決定】



【チャンプ本のポップ】

3 校内一斉読書の成果と課題

「楽しかった」、「またやりたい」などの好意的な意見が多数あり、「友達の発表で、普段読んでいないジャンルの本も知ることができた」と、友達が発表した本を図書館に借りに来る生徒がいた。また、学校司書としても、生徒がどんな本を読んでいるか知ることができ、図書購入の際に参考にしている。

一方で、ビブリオバトルの場合、公式ルールでの開催ができておらず、生徒の取り組み方にも差があった。2019年度は、「人気者投票のようになってしまい、やる気が出なかった」という意見があった。また、2020年度の紙上ビブリオバトルでは、ほとんどのクラスが時間内に終了できていなかった。実施内容の検討と時間の確保、効率的な運営が今後の課題である。

4 おわりに

校内一斉読書は、本を身近に感じてもらうという点で、生徒に良い影響を与えており、今後も継続する必要性を感じている。紙上ビブリオバトルの実施後、図書館便りで各クラスのチャンプ本を紹介し、ポップを図書館に展示したところ、多くの生徒の来館があった。このような機会を逃さず、生徒が様々な本に触れられるように読書指導係や図書委員と共に協力していきたい。そして、校内一斉読書以外の読書活動についても、もっと読書を身近に感じられるような取組を実践していきたい。